

令和6年度第2回静岡市立登呂博物館協議会会議録

- 1 日 時 令和7年3月6日（木）午後1時から午後3時まで
- 2 場 所 静岡市立登呂博物館 1階交流ホール
- 3 出席者 （協議会委員）堀切 正人会長、池田 水穂子委員、木村 貴子委員、
鈴木 健介委員、鈴木 杏佳委員、田宮 縁委員、野田 修委員、
藤田 友子委員、前田 晃宏委員
（事務局）岡村館長、清水主任主事、松原主任主事、渡邊（智）主任主事
- 4 傍聴者 0人
- 5 議 題 （1）令和6年度の事業報告
（2）令和7年度の事業予定
（3）市文化財関係課組織改編及び教育委員会補助執行の終了について
（4）日韓交流事業について
（5）議題「令和5年度までの協議題と令和6年度の現状」

6 会議内容

（1）令和6年度の事業報告

【事務局説明】

【報告に対する質疑】

（堀切会長）

ありがとうございました。

この内容についてご質問とかご意見のある方いらっしゃいますか。

（田宮委員）

ナイトミュージアムについて、博物館の入館者が思ったより少なかったのも、夜にやる登呂博物館の意義って何かあるのか。例えば三保の恐竜館、あそこだと、夜真っ黒にしてそこに泊まるとか。その時の特別感とか、あと動物園だったら夜の動物園だと、夜は違う姿を見せるとか、その辺がどこかにあるのかと思うし。

もう一点は箱作りの「琴を作って奏でよう」、今日見てきたんですが、弥生コーナーのところにあると思うんですけど、せっかく琴を作ったから演奏会をやるとか、何かお披露目するような何かがあったかどうかその2点教えて頂けると、もしかしたら次に繋がってくるかなと思います。以上です。

（事務局）

今の2点ですね。一つ目がナイトミュージアムなんですけども、まず、ナイトミュージアムのなにか良いところ、目立つところはないかという事ですけども、今回はそこが失

敗したところですよ。何をしているのかということがあまりよく分からず、ナイトミュージアムの良さが何も PR されていない。ナイトミュージアムの目的の一つは、これは他の所からあったんですけど、平日の昼間に来られないお客様が必ずいます、と。ですから「どこかそうした受け皿を作るべきじゃないですか」ということでご意見いただきました。それを実践しようとなつて、今年は、そうやってあげたらどれ位来てくれるのかしら、という試すような部分もあったので、そのあたりが反省点。2つ反省点としては、PR が非常に弱かった。2つ目が、来ると何かプラスになるのか。例えばそうした展示室の見せ方とか何かを変えるとか、そこで車座になって、例えば少し照明を落して説明するとか、そういったことを何も考えずに通常のままやったということ。それが良かったかどうか、こういったところが今後検討しなくてはならないということを考えた、というのが、質問の答えになっているかわかりませんが、それがナイトミュージアムについての回答です。

(事務局)

こちらの今回の「琴を作って奏でよう」の体験では、実際にこれよりも半分くらいの大きさの琴を、上の部分を実際に木工で作っていく作業だったりとか、このように箱型に形を組んでいくために穴を空ける作業だったりというのを体験でやりまして、その中で演奏というふうなんですけれども、先に板の方に実際に弦を貼る作業をして、実際に登呂遺跡では、板状の琴、それから箱作りの琴と大きく分けて2種類の琴が出てますので、その状態にして一齐に音を鳴らす事をやらしてもらいまして、その中で実際これが箱になった時どうなるかという事を、確認して四つ角を紐で縛って合わせて弾いてもらう。そうすると箱の中で音が共鳴してより大きな音が響くという事を体験していただいた。その為、箱になった後にこれを使って音階とか設定出来るっていうのがありますので、その先にさらに何か、曲に乗せて全員で演奏するということまで今回できるには至っていないというのが正しいと思います。

(田宮委員)

琴についてなんですけれども、どちらかというと制作がメイン。先ほどちょっと体験してきたのですよ。体験してきてみたら、やはり音階は難しいんだろなっていうのがわかったんですけど、あれは祭事というかそういったところに使われていたんですよ。その辺りがもしかしたら、演奏ができないまでも音を鳴らすとか何かの形で、中々難しいと思うんですけど、折角作ったら演奏をやっぱりやる、例えば竹を使った楽器を作る、作ったら今度は、それをどこかでお披露目するということがあると、作ってくれた方の満足感が得られるのではないかな。これで全て完結するのではなくて何か他のコーナー、他のイベントで登呂博物館からの出店みたいな感じでやっていけたらもっと効果的になるのではないかと思います。

(事務局)

ありがとうございます。

時期は前後してしまうんですけども、ここ2、3年ですか、登呂まつりにあわせて、登呂遺跡の復元祭殿、外の祭殿で、普段は扉を閉めていて、はしごもかかっている状態なんですけれども、登呂まつりにあわせてですね。弥生時代のまつりの場所ということで祭殿の扉を開けて、はしごをかけて、中に上がったり見学できるように、そういったイベントを言われているわけでした。そのイベントの方で中をただ見学するだけでなく、より祭事を発見出来るような展開を作って発展させたいなと考えておりましたので、そういった内容と合わせられるかなと思っています。

(事務局)

ちょっと付け足させていただきます。私が今年館長になって、登呂博物館の体験メニューの中で一番私が気になっているのが、体験が体験一つで終わってしまっている。今、田宮委員がおっしゃったように作ることに演奏すること、それが渡邊の方もこれからは作ったものをその次に繋げるというようなことを言ってくれているんですけども。今ちょっとそういう体験が、例えば土器を作ったら土器を作って終わり、石器作りも石器を作って終わり、じゃなくて例えば土器を作ったら、その土器を焼いて、それで物も煮て食べましょとかね。あるいは石器も作って、それで稲を穂積み具だったら刈ってちゃんと収穫までましょ、琴も作ったら音を鳴らして楽しみましょってというような、体験が単独でポツポツあって、今まで登呂博物館の体験で、変な話、大人がこういうメニューの体験をしますよって言って作った体験を押し付けている感がすごくあったもんですからね。今、一つ一つの体験、それはそれで手軽にできる部分もあるもんですから、それは否定する訳ではないし大事なんですけど、それから連続したストーリーに沿った体験、というふうにしていかないと登呂遺跡らしさは、出て来ないんですよ、というふうに考えると、今ちょっと色々そういう意見を私は持っていますって言わせていただいていますので。それに今ご指摘頂いた意見と全く同じ方法かなと、是非そういう事をやっていきたいなと思っています。

(田宮委員)

またもう一つなんですけど、登呂遺跡で例えば音楽を奏でるブースとかあったり、作ってもらった人にやってもらうのが一番いいと思うんですよ。その人達は表現者なので、土器で何かを作ります、それをここの登呂博物館でやるのも一つなんですけど、例えば青葉公園の所でいくつかの音楽のところ、食事作って土器作って食事をやるっていうふうにして、もう少し体験した人を表に出しながら、それをなおかつ広報するというふうなことができると、更に広がっていくような気がして。とても可能性あるような、一つずつ色々な所に点としてあるんだけど、その点をちゃんと繋いで、線にしたり面にしたりしていくという

のが、来年度期待できるところかなというふうに感じました。本当にいい活動をされているのでその蓄積をぜひ生かしてもらいたいと思います。

（堀切会長）

他にございますでしょうか。

（鈴木杏委員）

質問ですけど、夏の企画展のメイン対象が小学生だとお伺いしたのですが、その観覧者の数、小学生・中学生で5000人、次の秋の企画展が小学生・中学生190人という所で、かなり人数の差があるなと思いました。その理由が例えば夏休みだったからなのか、学生さんにPRして近隣の方に来てもらったとか、何か理由があれば教えていただきたいです。

（事務局）

これはですね、一つは、小学校の先生が5月の後半から6月にかけて登呂遺跡に生徒さんが来てくれた事がございます。それによってこういう数字が出てきているんですけども。つまりそれに合わせた企画を今年はやってきたということです。前はそれが4月が多かったですね。4月からゴールデンウィークまでが多かったですけれども、だんだんちょっと変わってきているというところは、この後で先生方にもその辺教えていただきたいというようなところがございます、それに登呂博物館が合わせてきたというような取り組みになります。ですから夏休みが終わって秋の部分が小学生・中学生が少ないのはそういう事情がございます。

（堀切会長）

他にございますでしょうか。

（藤田委員）

ナイトミュージアムのライトアップするに協力させていただいているという手前、来てもらいまして、芹沢美術館の夜間開館が本当に人気で。全部で133以上の人達がどんどんどんどん入って行くっていうのを私も毎年興味を持って行っていて。去年あたりから予約しないで、自由に入れるっていうことが、周知されていてやはり見たい物があるんですよ。白井晟一建築だったりとか、芹沢銈介ファンもいっぱいいますし、そういった見たいものがあるって来ているといったところがあって。全国から来ているみたいなんですね。同じタイミングでこういった夜間開館でライトアップをやっていくのであれば、やっぱり協力というのはすごく必要なのではないかなと。せっかく隣にある、珍しいことだと思うんですけど、そういったところを共存してやっていくことができるんじゃないかな、というのを

ちょっと思っていて。その辺りの計画とかはいかがでしょうか。

(事務局)

それは私も耳が痛いところなんですけども。日にちだけ同じにしましょうというところの擦り合わせはあるんですけども、じゃあ、相乗効果という部分については、あまり考えていなかったというところなんです。特にその芹沢美術館の場合は白井さんの作品であるところを、夜間ライトアップして、普段はライトアップしていないのに見せるという意味では、非常に魅力的だなと思います。それからもう一つは、芹沢美術館は平日入っても、結構カーテンが閉まって暗いんですけども、またそことは違ってカーテンを開けても、雰囲気がまた出たりだとか、芹沢銈介美術館の場合はそうした芹沢作品と夜の雰囲気が合わさって、非常に魅力がアップする。じゃあ登呂博物館はと言った時に、先程言いましたように、なんとなく、先を考えずにやってしまったという感じです。ただ、そうしたことは別なんですけども、今は連携は取れています。非常にコミュニケーションは良く取れていますので、これからはそうしたもっと先を含めた連携をとというような事を考えていきたいと思っています。

(藤田委員)

実は私、緑地政策課の方と話をしていて、やはり、ここの登呂遺跡の公園としても素晴らしいので、何かやっていきたい、という思いがあります。今度の担当がどうなるかわからないですけども、そう言う話も実際には聞いていたので、三者の連携が起きたときに、結果的に大きなイベントをやるわけではないですけども、協力体制で、相乗効果をそれぞれに生むことができるんじゃないかなと思っています。ありがとうございます。

(堀切会長)

他、ございますでしょうか。

(池田委員)

今回色々やられていて体験なんかもやってらっしゃるんですけど、情報発信というのが非常に少ないと思っていて、今回いくつかやられているんですが、実際ツイッター拝見していると、そちらであまり発信がされていないのかなと思うんですけども、その辺りは実際やってました？

(事務局)

情報発信の所で言うとツイッターレベルでというのは基本的に必ずしています。

内容に関わらずなんですけど、投稿数としては、昨年に比べて大きく伸びているんじゃないかなと思います。フォロワー数というか、見ていただいている方も増えてはいますの

で。ただ、イベントによって、所々ツイッターの配信も誰が担当という訳ではなく、庶務の担当で話し合いをしているところもあって、担当によってセンス、なじみがないのでちょっと投稿数が減ってしまったりといったところもあるので、その辺りは得意な職員がフォローするというのは、来年度以降も改善できるかな、というふうに考えています

(池田委員)

その流れでやっぱり若い層、特にお子さんの体験とかってインスタなんです。ましてや登呂博物館は環境とか凄く綺麗ですし、見てあっと思う写真が凄く撮れると思うので、ツイッターもいいですけど、多分インスタの方で写真で見せて人を呼ぶってこともやった方がいいのかなと思います。

(事務局)

ありがとうございます。

昨年の9月に静岡市文化財課として、インスタグラムを開設しまして、そちらでは全てではないですけども、基本的に企画展の前には、チラシだけでなく、動画だとかあとはフォロワー数544名いるんですけども、イベントの予告というようなことで、これもツイッターに比べれば、文化財課との兼ね合いで、投稿数は多くはないですけども、企画展、あるいは企画展に関連する講座・イベントに関しては、必ずインスタグラムの方でも投稿するようにしております。と言っても544フォロワーしかいないんでここから増えていけば見もらえるかなと。付け足すと文化財課のインスタグラムの中では、登呂博物館だけではなくて、文化財の紹介だけではなくて学芸員の職員についても紹介していて、どこで興味を持ってくれるかわからないので、働く人物にも興味を持ってもらおうということで学芸職である私とか、渡邊とかも出たりしながら体を張って関わっていきたいところではありますので、これからより正規で見ていただいている方が、ツイッターに比べて、リツイート、リポストみたいなのはないので、苦慮しているところではあるんですけども。これが繋がっていければというふうに感じているところです。

(池田委員)

重ね重ね申し訳ないのですが、文化財ではなく、登呂ファンの方がキャッチしやすいと思うので、大変なのはわかるんですが、もしできたら登呂博物館のアカウントで発信をしていただけるのが理想なのかなと思います。

(事務局)

ありがとうございます。

役所の中のアカウント数というところで、これまで登呂と文化財課の他に四つの係があるんですが、登呂とみほしるべはアカウント持っていて、そうすると、他の埋蔵文化財係

と文化財保護係、他の2つの係も情報発信したい。ただ、1係1アカウント持っていたりというところの中で、今回は文化財課アカウントになったというちょっと経緯はわかるんですけども、登呂も回数というか、まだまだ発信出来て投稿数も増やしていけるところがあると思いますので、頑張りたいと思います。

(田宮委員)

ツイッターもインスタグラムもSNSは基本的にはやってなくて、でも考えてみれば、登呂単独でやるのも絶対他にも入っていた方が、色々な人の目につくんじゃないんですか。そんなことないですか。

(事務局)

どうなんですかね。私も恥ずかしながら、文化財課のインスタグラムを始めるにあたって、自分もインスタグラムを始めた状況なんで。何が効果があるのかというのは実験次第だなというところはあるですけども。ただ、その中で今、文化財課単独では中々発信力が乏しいので、今、県の観光協会の方のアカウントは3万フォロワーくらいはあるものですから、そちらに協力してもらって、一緒に投稿したいなとか、あとは…。

(田宮委員)

そうなんです。私がお話したいのは単独でやったら皆来ない。逆に言うとそこじゃないところでやった方がいいかなって思っている。例えば私はラインで、静岡市のラインがあるじゃないですか。いくつかの興味ある所にチェックしておくとその情報が流れて来るんですよ。そうすると例えば、全然自分からアクセスしないところの情報が入って来るので、そういう形の方が恐らく幅広い人を、やっぱり文化財の人もそうだし、公園に来たい人もそうだけど、そういうふうに考えると、今やってらっしゃるのは基本的にいいと思いますし。あと、静岡市もラインなどが意外と皆、情報の事、基本的にはキャッチしたい情報がある可能性があるんで、流れてくると皆それは見るんで。そこを上手く使ってもらえれば、今基本的には単独でやったらあんまり、逆に言うと効果がないかもしれないなというのは思っているところです。

(事務局)

報道資料等出すときには、必ず市のアカウント、ラインなのかツイッターなのかといったところも、広報課の方からお知らせを流していただくようにはしておりますので、ラインの方にも登呂博物館のお知らせがきっと流れていると思うんですけども、そういった形で今後も幅広くやっていきたいと思います。

(鈴木杏委員)

ラインの発信のところで一つあるんですけど、私、今、三島市に住んでいて、三島市は三島市の公式ライン、毎週金曜日に市内で行われるイベントが全部、5つ位あれば全部送られて来る。静岡市のラインに登録してないので来ているかわからないんですが、三島市はそうやってリマインドを兼ねて、「今週こうですよ。」「雨の場合はこうですよ。」みたいなのが来るので、市全体としてラインを活用するのであればそういう週末に送るのもありなのかなと思いました。

(藤田委員)

インスタはやっぱり今強いなと思うんで、付けたらいいハッシュタグとかがあるのか、どうなのかとか、そういった人の力を使って、登呂遺跡、登呂博物館をシェアしていけるというのが、SNSの素晴らしさでもあると思うので、私もそんなに詳しくなくて。池田委員がきっと詳しいとは思いますが。やっぱりはぴまま静岡でも3000以上のフォロワーがいるようで、そういうところを使って、どんどんどんどん発信力を高めていくっていうのは、早めに少しずつやっていかれた方がいいのかなと思っていて。ハッシュタグの統一みたいなのところですかね。それをお願いしたいなと思いました。

(堀切会長)

私も大学のインスタで日々感じる事なんですが、凄い頑張ってリールとか作りこんでも、あまり見てくれない。それよりもホントに何気ない四季折々の景色とか、ちょっとしたお花が咲きましたとか、そんなものの方が見てもらえたりするんですよ。ですから文化財課のインスタを非常によく頑張って作ってらっしゃって、素晴らしいなと思うんですけども。そんな何気ない物と別にホントにちょっとした自然の風景とか登呂の環境を日々折々、発信して行くようなそんなコンテンツもあっていいかなと思います。

あと、登呂遺跡っていうハッシュタグの話が出ましたが、登呂遺跡というネームバリューは強いので、決して弱いものじゃないと思いますけども。まだまだ先程から委員さんからののびしろがあると聞きますけども。リツイートについてもですね、まだまだのびる余地はあると思いますので是非頑張っていただきたいなと思います。

令和6年度事業報告についてご質問いただきました。

私から一つ。先生との意見交換会やられるということで、非常に素晴らしいことなんじゃないかなと思います。以前の協議会でも話題になったと思うんですけども。今回社会科の先生の担当になって、これはやっぱり継続的に続けていただいて、後々は社会科の先生に限らず美術の先生とか音楽の先生とか共同で、琴の演奏会をやったりとかそういった時に、継続的に社会科の先生が続けられれば、色んな先生方が増えてくれるんじゃないかなと思います。

(事務局)

その関連で、先の話になってしまうんですけども。今日ご挨拶していただいた別紙の中で、カラー擦り2枚あるんですけど、1枚先にご説明をさせていただきます。また後で議題の方でも触れようと思うんですけども、今年度、博物館に関する意見交換会ということで実施をしました。この時には、先生方に周知をする繋がりがなかったものですから、どうにかして市内の小中学校の先生に発信をしようと、先生方にも回覧物がたくさん届くものですからチラシを配っても届かないということで、今回社会科の自主研修会の方々を、窓口として周知をさせていただきました。本市といたしましても、第1回の協議会でも、たくさんの先生方というところと、後、先程もあった夏展の時期に来ていただいた学校というのは、主に6年生の先生方ですけども、社会科の担当が専門ではないので。色々な先生方に知っていただければということで、今回意見交換会をしたものを、更に継続していくために、来年度「教員のため博物館の日」というものを計画しております。こちらは、国立科学博物館が主になって全国的な取り組みとして実施しているもので、目的としては先生方に博物館にまず来てもらって、親しんでもらう、博物館を知ってもらった上で使ってもらえるように周知を図っていくというのが、大きな目的です。ということでこの意見交換会で、開催したような、更にそこでご要望頂いたものを元に、来年度以降更に幅を広げていけるように、社会科以外での登呂博物館の利用を知ってもらうためにも、まず登呂博物館を知ってもらうということで、継続した取り組みとして「教員のための博物館の日」も計画しているところまで、今お話しさせていただきます。また、協議会の方でもお話させていただきます。

(堀切会長)

ありがとうございます。他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。
では先に進めまして、次に令和7年度事業予定と市文化財関係課組織改編及び教育委員会補助執行の終了について事務局から説明をお願いします。

(2) 令和7年度の事業予定

【事務局説明】

(3) 市文化財関係課組織改編及び教育委員会補助執行の終了について

【事務局説明】

【(2)・(3)への質疑】

(堀切会長)

では来年度の活動計画と組織改編のことについてご説明いたしましたが、ご意見とかご質問とかありましたらお願いいたします。

ちょっと固いかもしれませんが、組織改編についてですけど、教育委員会の補助執行

ということですが、実質的にはそんなに変化はないのかもしれませんが。それを機にですね、教育委員会との繋がりが取れないことがないように是非お願いしたいなと思います。

2 ページ目の組織図の方ですけども、これちょっと見ると、まちは劇場推進課が、課から係へ移行、文化財課、課から係へ移行、統合したというのはわかるんですけども、見取り図見ただけでの印象でいうと、文化的なことは後退してるのかなという印象を受けたりはします。現場の皆さんにぜひともがんばっていただきたいということですね。市長が変わったということも大きいかもしれませんが。前向きに考えればですね、先程、館長さんの方からの説明があったように、観光と産業との連携を強めることですので、そういう趣旨で変えるのであれば、是非ですね観光課とかの連携をさらにさらに強化して頑張ってください。

あと1点確認なんですけど、教育委員会の補助執行終了ということですが、博物館法で定める登録博物館については、変化がないということによろしいでしょうか。

(事務局)

登録博物館の制度についてはですね、登録博物館の制度の改正もありまして、現在新制度になりまして、今まで登録博物館でない博物館を、大きく登録博物館にしていくような動きが、国の方で起きております。静岡県におきましても、県内の今まで登録博物館であった博物館、それまで登録博物館でない博物館を含めてですね、改めて新制度の中での登録博物館に申請をする作業がですね、この後今月位から各都道府県で始まっております。静岡県それから静岡市の現状で言いますと、まだ静岡県内で新しい登録博物館に登録をし直した、もしくは新規登録をしたというところはなくてですね。この次の4月から県の方でもその動きを見て登録をし始めるという動きが始まっています。静岡市や浜松市、政令市では政令市、それぞれの登録の動きになるんですけども、静岡市も併せて4月から登録博物館の再認定だったり、新規申請を始めて行くと教育総務課の方から連絡を受けておりまして、丁度登録博物館については、その第一陣として、来年度の再登録を動いていく、そういったことを今のところ計画をしております。現状登録博物館は、みなしでの登録博物館というような状態になっております。これについては、今年度を含めて5年間の間に、この暫定期間の間に再登録するというようなことが求められています。

(堀切会長)

博物館法の登録博物館制度自体といった議論がいろいろ挙がりまして、いずれもほぼ制度的な形骸化しているというところで、博物館法が改正されたのは、これまで登録博物館になる要件として、教育委員会の所管でなければいけないという決まりがあったんですが、そこを外すことによって、教育委員会の所管でない博物館でも登録博物館になりやすいようにする、というのが、博物館法のこの間の改正ということです。博物館法の改正の

趣旨はそうだと思うんですけど。それはですね、教育委員会でなくても登録博物館になれるいうところを逆手にとってですね、教育委員会の関わりを外してしまうと。これまで教育委員会が関わっていた物を、教育委員会が関わらなくてもいいよっていう事で教育委員会を切ってしまう。なんかちょっと個人的には腑に落ちないことがなくはないんですね。ただ、いずれにしても登録博物館であることのメリットはどれくらいあるのか、ということとはともかくとして、登録博物館だったものが登録博物館でなくなるということは非常にマイナスのイメージを持たれてしまいますので、引き続き、登録博物館でいていただきたいという事も、教育委員会との関わりがどうであろうと、登録博物館というステータスは、是非是非守っていかなければというふうにお願いしておきたいと思います。これだけちょっと博物館法というと専門的なことで、みなさんにわかりにくいかと…。

でも教育委員会との関わりというとはですね、学校さんとの関わりも非常に大事だと思います。法改正がどうということとはともかくとして、特に学校さんとの関わりというのは是非大事にしていただけたらと思います。

皆さんいかかでございますでしょうか。

(田宮委員)

今、博物館法の改正のことについて詳しくご説明していただいたんですけど、学校との関わりと言うことで、例えば「教員のための博物館の日」とかありますので、そういったことについて教育委員会としてどのように関わっていけるのでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。ご説明します。「教員のための博物館」の日についてもなるべく先生方にご参加いただくというところで教育委員会、特に市の教職員の研修教育センターの担当の方と打ち合わせを進めております。ただ、今回に関しては「教員のための博物館の日」はじめ、意見交換会の段階から教育センターとも話をしていて、実際には認知はしていただいております。「教員のための博物館の日」開催についても、共有は図っていて、来年の先生方の年間研修のスケジュールの中にも掲載していただけるというところまで、口頭ですけれども確認をしているところです。私達としては、より参加しやすくするために、夏休みといっても、子供たちは夏休みでも先生方はお忙しいとか、その間に研修が多いということでしたので、今協議中の段階なので決まっているものではないんですけども、先生方の研修の一つとして位置付けられるようにということで、協議を進めています。来年度は時間的に厳しいですけども、早くても令和8年度にはこの企画を先生方の研修の一部として位置付けて参加出来るように。今回は令和7年度の8日の金曜日と9日の土曜日と言うことで、平日1日そして休日を1日を設定しております。8日の金曜日を研修として参加していただく、あるいはその他の研修を選ばれた先生方には、プライベートでも参加出来るようにということで、具体的な開催内容は決まっていないんですけど

も、なるべく先生方に、こうしたところで行事に参加していただけるように教育センターとも協議をしながら、あるいは、先生方の周知も含めて、協議を重ねているという段階です。

(田宮委員)

とても今の運びがいいなと思いました。やはり教育センターの教員研修の中に入れて貰えるのは当然だと、私の感覚からすると思っています。何故かと言うと、現行の学習指導要領では、やはり地域との連携をきちんとしておかないと学校内だけでは、全ての学習が解決できない状況にもなっているんです。そんな時にどういう形で博物館、社会教育施設がイニシアチブをとってもらえるかっていうところって、凄く重要になってきますので、是非今のような運びでやっていただけるといいと思いますし、今静岡教師塾がどうなっているかわからないので、そういう所にも入り込んで行けるといいなあというふうに思っています。社会科だけじゃないんです。実は、もっと幅広く色々な先生方が、登呂博物館の持っている価値を知らないといけないなというふうには思っておりますので、教育委員会との関わり、教育センターとの連携というのを、これからも図っていただけるといいと思います。

(堀切会長)

他に何かございますでしょうか。

(藤田委員)

基本的には、例年と同じようなイベントと体験をやっていただけるということなんですけども、何かここに記載されていないような新しい行動をやらないのかなと、単純に思いました。

(事務局)

このスケジュール表を作る時には、まだ充分調整がついていませんでしたので、色々これ以外にも当然考えております。本当は、新しいイベントを記入しなくてはいけないなどは、思っていたのですが時間がなくて、口頭でいいですか。話します。

(事務局)

まずは2月の16日に、先程ご説明させていただきました銅鏡の「鑄造体験」ということで、こちらは先方の方から、鏡の鑄型をお持ちいただいて、そこに金属を流し込んでいくというような体験だったんですけども。これを登呂遺跡らしいものにしていきたいという話をしておりまして、その中で登呂遺跡の金属道具というのは、ほとんど出土していないなか、腕輪の出土があります。青銅の腕輪というものを鑄造するような体験に落とし込

めないかなと考えておりました。ちょうど静岡市の埋蔵文化系の学芸員の方が、腕輪の研究をしている職員もおりますので、その職員と事務共有しながら、形を作るところから始めていって、磨くのも今回の体験では紙やすりを使って磨いたりしたのですが、そういったものではない細かい砂を使って磨くということまで復元し体験として落とし込めないかなと、それを来年度の中で実施したいと考えております。

（事務局）

あとスケジュールに載せてはいないんですけれども、通常の登呂博物館に来た時に体験出来る物として、私の勤務する前まで、数年前までコロナ以前は実施していたような典型的な土器炊飯実施だとか、あとは、外で活動しているいわゆる村人と呼んでいる屋外体験指導員と今話をしているのは、せっかく屋外で実演というか、動いている村人がいますので、来た方に実際に外での作業を体験してもらえようなことで、イベントとして発信するのではなく、来ていただいた方にその場で体験してもらえような、復元した木製農具で田んぼを耕してみるとか、具体的な事までご紹介出来ないんですけれども、そういった来た時に体験できるものというものの吊り具合の計画をしています。

（事務局）

それからですね、今、ミュージアムショップで、金土日と開いているんですけれども、その中で勾玉作りのキットなどをミュージアムショップで販売をしております。そういったものを、今まではお持ち帰り用として、販売をしていたんですけれども、例えば、土日のホールを使っていない1時などに、ショップで買ってきた勾玉作りのキットの実際に体験ができて、石に粉をかけたりしますので、ミュージアムショップの場所で体験してもらって、お持ち帰りしていただくというようなことも、ショップと協力しながら、ショップの売り上げにつなげつつ、博物館としても体験してもらって、持ち帰っていただくというようなことも、なかなか土日にホールとして使っていない日にちもあるもんですから、そういった中で、ホールを活用することも考えております。合わせて、2月16日には、ボランティアさんを中心に、機織り機でのミサンガ作りの体験をやっていただいたのですが、そういったボランティアさんが主体となるような体験事業というものを、例えば、博物館でその日手軽にできるような、何かお持ち帰りできるものを作るといったイベントというものを、来年以降にボランティアさんの活動をうまく推進しながら増やしていければな、と考えております。

（田宮委員）

イベントを宣伝していくことは、一方で必要なと思っているので、それとあと、私が思ったのは、そういったイベントをここだけでやるのではなく、静岡駅の地下のあいう所で実演しているのを、ボランティアさんがやっているものを見てもらうとかね。そうい

うのなんかを、宣伝しなきゃいけないと思うんだけど、何を新しくやって、何を止めていくのかを、きちんとビルドアンドスクラップしていく作業も、来年度あたり必要になっていくのではないかな。登呂博物館の発信していくというインスタとかそういうものも大切だけど、それだけでなく実際にやっている人を見てもらうとか、それはすごくインパクトがあるんですね。それでそういったところも考えていけるといいのかなって。私は、ずっとお話しているのは、ここでやるんじゃなく例えば青葉の所で楽器演奏やるとか。そういうふうな見せる人がやっている、活動している人を見せていく。そういった所から次の人達の心を動かす。一過的な物でなくて、動かすのではないかなと思うので、もしあれだったらそういったものも考えながら、どういう風なのが効果的なのか。あんまりたくさんやってくださいとは全然思っていないですよ。効果的な物をきちんと打ってくっというのが、しかも、それが博物館としての役割を果たしていけるものに繋がっていくというふうになっていくといいのかなというのはいいます。

(事務局)

昨年度なんですけども、夏に SDGS に関連する展示をさせていただいた時に、関連イベントとして、出張博物館というのを静地下の広場で行いました。それも一つの博物館に行くっていうバリアを取り除きたいという部分もあってですね、初めて企画させていただいて、そこでこういった複製品の展示をしたりとか、ミニチュア土器作りを、その広場でやるような体験を一応行わせていただいたことがあります。凄く人通りが多い場所になりますので、今まであまり博物館に来られない方、登呂遺跡にあまり馴染みのない方にもお話をさせていただく機会がありまして、また、静地下の展示コーナー、広場の所を市で改修して、今後市の方でも活用している所ありますので、そういったところをぜひ活用していいのかなと改めて思いました。

(木村委員)

お話を聞かせていただきありがとうございました。先生方への研修だったりとかで、登呂博物館を身近にしてもらってというとても今後の博物館の発展に繋がるような、そういう研修会のようなものも行っていただいて本当に興味深く、お話を聞かせていただきました。中々、みんな直接ここに来て、色々見聞きして体験していただくのが一番いいと思うんですね。子供達にとっても、学校の先生方にとっても。中々それができないという現状がありますので、できたら出前講座の方の充実を図っていただけると、もうちょっと身近に博物館を感じることができるのかなと思ひまして。あと、学校だけでなく、できたら、私の個人的な希望なんですけども、放課後子供教室とか児童クラブなんか子供が授業が終わった後に集まれる時間帯ってというのがありますので、そちらの方で児童クラブなんか夏休み・冬休みも毎日ありますので、イベントが何もない時、学校の近くの児童クラブでお勉強して、ちょっと遊んで帰って来るといような単純な毎日になりがちなので、そ

ういったなかで、土器を触ったりお話を聞かせていただいたりとか、出前講座や物を作ったりというような体験ができるような、そんなイベントを学校以外の付属のそういう児童クラブや放課後こども教室でやっていただけるとまた広がっていくのかなと思いました。

（田宮委員）

付け加えなんですけど、今、木村委員の学校に行った時に学校の授業中にやる、そうしたら必ずその後で、親と一緒にここに来るっていう引き込みをきちんとしないと。多分大変になるのはわかるんですよ、ウィンウィンでいかないといけないので。そこをきちんと次の時には親と、何人かでいいから、できたらでいいから来るっていうふうな引き込みのプログラムを作っていくということとか。放課後児童クラブなんかも夏休みとか行く所がなくて困っているんですよ。

（木村委員）

今、すごい制限がいろいろあって。中々子ども達を外に連れ出して行くということが難しくなっているんですね。安全面とか、先生方の責任の問題とかがあるので、中々制限が色々あるさくてそういうのがしにくくなっているんで、できれば教室内、室内で色々何かできるもの、学校の体育館を借りたりとかそれ位なんですけど、やれることは。そういう形でできれば出向いて何かできればと思ひまして。

（田宮委員）

例えば夏休みだったら、夏休みの宿題に代わるような何かを「登呂遺跡に来ればできるよ」みたいなのをプログラムとしてやっぱり考えていかないと。さっきからお話しているようなイベントをたくさんやるのはいいんだけど、大変になっちゃって全部がこう広く浅くになってしまうといけないと思うんですよ。そのプログラムのところをもう少し注力していく。今、木村委員がいいお話して下さったんですけど、学校に行ったら今度学校の子供と親が来れるとか。放課後児童クラブだったら、放課後児童クラブの興味を持った子が親と一緒に来るとか。そういうふうなところまで、考えてやっていくと更にいいかなと思いました。中々出られないし、近くの所でも利用できるかもしれない。

（事務局）

ありがとうございました。今、お話ししていただいた中で、出前講座に関しての第1回目の協議会でもお話させていただいたんですけども、内容の見直しと、後は「使ってもらいやすいパッケージ化」というところでいろいろ整理をしていきます。ただ、今年度の色々話が資料の別紙になるんですけども、出前講座を整理して、学校の中と出前講座の事前学習と出前講座と博物館の見学とか。博物館に来た後の事後学習というようなところの。あとは博物館に来れない学校での出前講座だけっていうところの実証を今年度しました。

更に、今年度学校教育課と話をする中で今、各学校それぞれ一教室とか、移動できるような形でモニターがあったり、ひとり一台パソコンを持っていたりするところの中での先生方の苦勞としても、登呂博物館から学芸員を呼んで、授業してと手間になるので、例えばオンラインで授業の最後に学芸員さんのお話を聞くとか、授業まるまる1時間学芸員さんは話を聞いていて、貸出しができれば、体験用具とか土器のレプリカとか触れるけれども、先生方の方にそれだけ預けておいて、使ってもらおうというようなこともできるのではないかというふうなご提案をいただいています。それにしてもなんですけども、ここでそんな形で実証したり、体感された先生方には周知を図っていたんですけど、利用率は中々伸びていかないというところもありまして、まず知ってもらわないと。先程の放課後出前講座に関しても、放課後子ども教室にしても、チラシの中に登呂博物館と広告をして検索していただいています。それらは呼んで頂かないと、我々も出向くことができないので、知ってもらい、呼んでもらうというところの中で、もちろん、こちらでのメニューは先程の田宮委員のほうからお話いただいた情報を登呂博物館に繋げることがまだできていないところでありますし、登呂博物館の取組みとかも気軽に、手軽にできるよってところを知って貰うためにも、先生方とか教育の関係者に知ってもらおうと、いったところもありまして、教員のための博物館の日という、教員のための博物館と書いてありますけども、教育の関係者と受け取っていただくというような形で、他の博物館の事例とかを見ていくと、教員志望の学生だとか教育に携わっている仕事に従事している方を含めて、イベントに来て貰うところもあるので、登呂博物館としてもまず色々な事をやってみようと思っているんですけども、使ってもらい、知ってもらいということがないとその次に繋がらないと思うものですから、それも含めて、そうしたイベントを定番にしていきたいなというようにところで、教員のための博物館の日を含めて企画をしていきます。

(事務局)

放課後子ども教室での出前講座については、昨年度南部小学校さんでですね、放課後子ども教室の方で呼んでいただきまして、ミニチュア土器作りの体験をですね、教室さんの方で粘土を買っていただいて、我々職員2名伺って、体育館でミニチュア土器を作るっていうのをやりまして。それは、市政出前講座のチラシみたいなのが毎年送られてくるんですけども、令和5年度の時に出前講座のチラシを作ったものを添付したときに、それを見ていただいて、連絡をいただいたということがありまして。より子ども教室さんとかを、それを運営される方により効果的に、この出前講座こっちだったよとか、教員のための博物館の日だったりとかを、PRする方法であったり、媒体というものがあれば教えていただけると、そういったところを狙いたいなと思うんですけども。

(田宮委員)

媒体とか方法とかじゃないんですよ。ただ単に好きなのか面白そうだなって思ってもら

わないと駄目で。いくら媒体でやっても届かないと思う。結構敷居高いですよね。キャラクターを作るとかそういう問題じゃないんですよ。好きになれるかどうかってところかなって思っています。

(木村委員)

4月の半ば位に、放課後子ども教室の運営をする方達が集まって、委嘱式みたいな事をやるんですが、そこで年間の出前講座の申込書みたいな物をもらいます。そこに入っている、目にとまる可能性は高いのかなと思います。ただ、走ったりとかマラソンの教室とか、ちょっと体育館でボールを使ってという体育系のものは、すごい人気があるようなので、文化的なそういうイベントにつきましては、ちょっと指導者が興味を持つかどうかってというのは、また違う話になりますけれども、そういったところでPRできるといいなと思います。

(野田委員)

学校の立場からお伝えします。まず、放課後こども教室についてですけども、今南部小の鈴木委員もいらっしゃいますけれども、昨年度までは、私が南部小の校長でした。放課後児童クラブの方から「こういうのやりたいんだけどどうですかね」と相談を受けて、「いいんじゃないの」という感じで、結構好評だったと思います。それから、先程勾玉の話がありましたが、コロナの時、修学旅行で県外に行けなくて、浜松に行った時があるんですが、浜松市博物館に行った時に勾玉体験作りというのがあって、これ位の部屋で子ども達がバケツ、椅子、紙やすりをセットしてやっていて、その後ずっと勾玉をつけている子もいましたし、結構、小学生くらいは楽しい体験かなと思います。それから、ちょっと質問を兼ねるんですけども、夏季企画展が、今年は6月8日から9月1日までだったんですけど、来年度は4月から6月。これは、今年の入った人を見て、期間を変えた。

(事務局)

この展示の期間については、令和5年度の段階で、4月の後半から5月中旬から6月までに、小学生のピークが移っているっていうのも分かりましたので、令和5年度から、段階的に時期を少しずつ設定をずらしながら、開催の日時というもありますし、調整しながら動かしていただいております。それで今年度は6月後半から始まって、とりあえず来年度からは、当初想定していた5月から6月をまるまる小学生向けの展示の期間に定めるということが、調整が終わったのが、令和7年度になりますので、今後令和8年度以降もですね、春の展示というのはこの時期をベースにしたいと考えております。

(野田委員)

実は、たぶん、おそらくこういう理由から日が移ったと思うんです、小学校6年生の社

会科での学習する内容が、歴史それから政治が少々。歴史が大部分なんですけど。歴史が多分3分の2、政治の事についてもやって、最後に世界と国との関係をちょこちょこやり作りになっているんです。昨年度までの静岡市の小学校の取っていた教科書の作りが、最初に政治をやるんですよ。最初に政治をやって、それは多分5月いっぱいなんです。それから歴史に入る。となると、縄文・弥生時代というのは、6月の後半くらいだったんです。ところが今年から教科書が変わりました。その教科書の作りの順番は、歴史をやって、政治をやって、国の関係をやって、というのが今年からの教科書なんです。だから、縄文・弥生をやるのが多分5月。ちょうどこのピークにピッタリになっている、という事になるんじゃないかなと思います。だから教科書、今度指導要領が多分もうじき変わりますので、どういうふうになるのかとはなんとも言えないですけども。静岡市が使っている教科書は、残念ながら登呂遺跡載ってないんですよ。昨年度までは載ってたんですよ。今年東京書籍というところなんですけど。三内丸山とか、その周辺の志太地区の教科書であるとか、志太地区も結構きますので。その教科書の絡みからから見ていただけるといいのかなという気がします。それから、その学校の立場からすると「いいですよ、これすごく教育的効果がありますよ。」という資料が、山ほど来るんですよ。チラシも嫌と言うほど来ます。自分も行政にいたからよくわかりますが、「広報しましたか?」「はい。印刷物、チラシを作ってばらまきました。」って言うと、だいたい通るんですよ。ていうことは、例えば、こういうようなチラシが、例えば、一つの学校に来たとしても、実は全く意味がなくて、紙の無駄です。その辺のことについては、これにけるお金が、多分何枚印刷してもそんなに大した額ではないんですけども印刷においては。どう広報するかってというのがすごく難しい話で。自分、インスタもやってなければラインはやってますけど、Xもやってないんですよ。県庁にいた時もあるんですけども、その時はFMK-MIXに広報課を通じて頼み込んで、夕方の番組とか、朝の番組に出さしてもらって、広報するとかってことをやったことがあります。それは割と効果がありました。テレビはお金が無いので、できませんでした。そんなようなこともあります。少しまとまりないですが、以上です。

(鈴木健介委員)

南部小学校です。前回の時もお話しましたが、本校は、6年生の時にやる時に出前講座に来ていただいて、実際に、ここにも来ましたので。最初自分は2回もそんな楽しいのかなって思ったんですが、子ども達の様子見たり、担任の話を聞くと、1回目来ていただいて、説明を受けて目の前で土器に触れて、出前講座による事前学習の例、まさにそれなんですけど、見学する時視線が定まってきていて、すごくよかったって聞いています。自分、ちょっとそれも感動して、近くだからこうやって手厚くしてもらえたかなって思ったら、読むと、今年度から変えていただいているという事で、本当に皆さんのご尽力には、本当有難いなと思っています。自分が感動したので他の学校にもいっぱい「よかった

よ。」って言ったんですけど、おっしゃる通り、他の所も中々そんなにすぐには行かないし、ここに書いてあるように、やっぱりバス代も高くなる。何度も外には出れないし。それから登呂遺跡・弥生時代を勉強する時期がどこの学校も6月らへんになるので。自分も担任を持つ時に予約を取ろうとするといっぱいで取れない。なら学芸員の人をいっぱい雇ってくれればいいのになと思って、その時だけでもっと受け入れられるような体制を作るっていうのも一つかなと思いました。ただ、この時期に来た子達がまた、登呂遺跡に来るリターンのも多いので、関心を持って来ているので、やっぱりそこはきっかけとして大きなポイントかなと思ってます。だからそこは離せないな。それから、高松中学区は、グループとして静岡学の中で、しずまえとかオクシズとかの中の一つで、歴史学習ということで、特に登呂学習に力を入れています。結果的には、地域に誇りを持つ子ども達を育てたいというところなので、歴史、そのやりたいピンポイントだけに振るよりも、こんな素晴らしい史跡がある静岡市ってすごいよ、みたいな方向の大きな感じでいけるともっと長く利用できるのかな、利用してくれる人もいるのかな、と思いました。2年生で、生活科で来た時もあの広い自然の中で、走り回っている子供達がホント素敵で美しいなって思ったのを覚えています。先程、田宮先生がおっしゃったように、青葉シンボルロードの方でやって、ここに連れて来るっていうのもホントにそうだなって思って、ここの周りの子はこれっていうのを、人を増やすためには連れて来なきゃならない。SNSの話があって、自分は昭和なのでそこは触らないんですけど。さっきチラシを見た中でも赤米のバーガーに関心があって、赤米は食べたことがなくて、でも、ここでは赤米があって。よくニュースで見えます。ああいうのを向こうでやって、関心を持った人がこっちに来て食べれるみたいな。これは高校さんとの兼ね合いなんですけれども。もっと難しいハードルになりますけど。何かそういうのがあるといいかな。もちろん、昔から自分が小さい時から登呂博物館の方がよく出てって、色んなイベントやってくれて、そういった策を練って下さっている事はもう重々わかってますけど。そういった色んなところを、先程からおっしゃっている点を線にして面にしてっていうのは、地道に続けていくしかないのかなって思っています。以上です。

(堀切会長)

出前講座のことなんです。青葉シンボルロード、アウトリーチが効果あるという話ですけれども、まさに全くそのとおりだと思います。ただ、アウトリーチやると大変ですから、こっちまで来てやんなきゃならないし、外もやんなきゃいけないということで、現場の職員さんは、アウトリーチやればやるほど、大変になるんですね。ですから、できる範囲で、無理をなさらないで頑張ってくださいと思いますが。また、繰り返しになるんですけどね。その市長部局として、観光との連携を強めるのであれば、そういう青葉シンボルロードとか静地下とかのイベントは、たとえば観光課でやるとかですね、そういうご協力を仰ぎたいですね。現場でアウトリーチも館の運営も全部やれというのは無理

なんですよ。アウトリーチやれというんだったら、当然人を出せと。観光課で、赤米バーガー販売するのであれば、観光課でやればいいんじゃないか、個人的にはそう思いますんで。現場だけで追い込まないように、できる範囲で、頑張ってくださいだと思います。

次に日韓交流事業について説明をお願い致します。

(4) 日韓交流事業について

【事務局説明】

【質疑】

(堀切会長)

ありがとうございます。この内容についてご意見ありますか。

非常に意義があると思いますので、ぜひ、頑張ってくださいと思います。

ちょっと先に行きまして、今回の議題である令和5年度までの協議題と令和6年度の現状について事務局から説明があります。

(5) 議題「令和5年度までの協議題と令和6年度の現状」

【事務局説明】

【質疑】

(堀切会長)

ありがとうございます。では皆様からご意見をいただきたいと思います。

(前田委員)

前は、南部生涯学習センターに所属しておりましたが、ただいま静岡市の歴史博物館にいます。そういった立場で、聞きながらいろいろ複雑なところがあったんですけども。一つ質問と私の感想なんですけど、先程委員長もおっしゃいましたとおり、このサイズの博物館に求められている一種の、サイズというのは人的人数もそうですし、物理的なサイズ感もそうなんですけども、限られている中でどこまでできるかという課題の中で、とてもたくさんのアプローチをされていると思っておりまして、その反面学芸員も大変だろうなと思っておりまして。博物館の本来の目的の柱の一つである調査研究についても、大きなミッションを持っているというところで、そういったバランスというのは、難しいんであろうなと思ったのが私の感想です。一つ質問なんですけども、登呂遺跡をこれから引き続き扱っていく中で、これから登呂遺跡の中で、まだここをこう取組んで、ここを掘り下げて調査していこうとか、ここがまだ見つかっていない魅力だと感じているとか、そういった潜在的なものとか、ちょっと未来に向けたお考えがあれば、せっかく館長がいら

っしゃいますし、お聞きしたいなと思います。お願いします。

(事務局)

ありがとうございます。

まず、これまで、この協議会などでも、こんなにたくさんイベントをやっている、というのは非常に宣伝されて説明がされていきました。ところが、さっき私言いましたけど、このイベントって、体験もそうなんですけど、どういう効果があるんですかっていうところが非常にわかりにくい。いっぱい体験をやっているんですけど、それが結びついてるんですかね。この体験やれて良かったですよって言うのは当然あるんですよ。だけどそれは登呂博物館でやる必要があったんですか。他の所でも十分できるんじゃないですか。という物だとすると、若干力をかけるところがちょっと違ってたんじゃないですかっていうふうに考えたらどうかと。それはさっき前田委員がおっしゃったとおり、この規模の博物館で、これだけの色んなイベントをやってるいうふうに、逆に見えたり、そういうアピールの仕方を登呂博物館ができてきちゃったというのが。で、今ひとつ考えているのはさっきスクラップ&ビルドの話が出ましたけども、つまりそういうことをひとつはしていかなくちゃいけない。あるいはそれは、誰にやってもらうか。例えば、常時来ていてマニュアルもできてきているようなものを、学芸員が対応してやる必要があるんですかっていうことがまず一つ。ですから、そう言ったものこそ、せっかく登呂博物館を支えてあげようって言って来てくれているボランティアの人達の自主性を、もっと使ったらどうですかっていうふうに私なんかはまず思っています。そういう中で取捨選択をしていく中で、キャパっていう話でいくと、建物の大きさこれは変えられない。それから市の職員の数もこれもいっぱいいっぱい。だとしたら、そうじゃないところで私達を助けて貰ったり、その中で、これをもっともっと力を入れていかなくちゃいけないというものに、ある程度特化していかないと、登呂博物館の良さは、他の色々な施設に比べて埋没してしまうんじゃないかっていうことがひとつあります。ですからそういったところをもう少し工夫しましょうっていうふうに、博物館全体で考えているところです。それが、前田委員から言われたところの一つの回答です。それからですね、何をこれからやっていくかっていうところでいきますと、私が今考えていることでは大きく二つあります。一つは登呂遺跡に関わる人をもっと増やしたい。今までは、歴史好きな人は、何もしないでも来てくれたんです。そこで一生懸命力入れてるところがあって。それはそれで維持をしていってもらったり、コアな人達をもっと近づけるということも大切なんですけど。そういうことではなくて、どんどん今人口が減っているんですね。人口が減っている中で、その歴史を、例えば好きな人比率はどんどん減っていく。そうすると先細りですよっていうことに成りかねないんです。関係するそのもっと幅の広い人達が登呂遺跡に来て、その中で関係を結んで貰えるように一つはしていかなくちゃいけない。それは色んなコミュニティの人たちと連携をする。例えば今日も一緒にやっていただく中で、登呂遺跡の景観てすごくいいですよ、雰

囲気だとか自然っていいですよ、だったら、そういう関係の人達ともっと私達コラボしなくちゃなんないのかなあ。そうすれば、そこで来てくれて、新しい魅力を見つけてくれて広げてくれるのかもしれない。その人達がリピーターになってくれると登呂遺跡は、さっき言った先細りじゃなくなるんじゃないですかっていうのがまず一つ。それからもう一つ。それは、十分登呂博物館、登呂遺跡の持っている価値の中で使えていない部分があるんですっていうのが二つ目。それは、遺跡の所でこんな事出来るよね。ていうことなんかも、もっともっと実際にはあるはずなんですね。なんですけど、そういった事が充分できていない、或いはさっきも一番最初に言いましたけれど、体験もこの中では体験しているんですけど、外で体験していない。田んぼは使っていますよね。でも収穫部分ってあまり使われていない。それで堀切先生なんかも委員なんかもやっていただきましたけれども、あのところでも、わらのトンネル作りもそうですし、或いは宿泊もそうですし、色んなやられていないことがいっぱいあるんで、そういったことをもっとやりたいですね。博物館の中でも常設展示は、ずっと常設展示でリニューアルも何もされていないですし。1回見に来たら、この前とまったく変わらないよねっていうのも勿体無いと。さっきも言いましたけど、いっぱいまだ見せてないものは、収蔵庫にいっぱい入っている。ですから同じ物であったとしても、入れ替えするとかなんかそういうことでも、そこで何か気が付いてくれるんじゃないかなっていうようなところもあるので、使っていない物、使えていない物をもっと押し上げていきたい。そういったところが私の方で、今前田委員の回答になるのか分かりませんが、そういう風に考えて館全体で取り組んで行こうとしています。

(堀切会長)

ありがとうございます。

他にございますでしょうか。

(藤田委員)

どうやったら使いたいと思っている人達は申請すればいいですか。例えばですけど、私の周りでキャンプをやりたいって言う人がいます。あとはヨガの先生がヨガをやりたい、とこれは緑地のほうかと思うんですけど。後は、CCCの私クリエイターなんですけど、そっちは、みんな登呂遺跡に何となく興味を持っていて、私が登呂登呂登呂と言い続けているんで、元部長とかもいいねというふうに言ってくれているので、何かしらのデザイナーたちが、登呂に関わりたいたいという思い、この間共生を取材している半沢さんも来ていただいたように、やっぱりみんな登呂で何かやりたいと思っている人がいたりしますので、その窓口がどういうふうなのかわかんないなと思います。

(事務局)

今の話の中でちょっと法律的な部分とそうじゃない部分があって。その中で、まず一つ

は、こういう事はやっちゃ駄目だよっていう事も、一つは史跡という扱いであります。ですから、じゃあそれは登呂遺跡全体の中でできないのかって言われると、できる所もあるんですね。さっきキャンプの話ですけど、キャンプも場所によってはできるんです。だからそういう話を、今まで敷居が高くてきっと話ができてないんだと思うんですね。だから、そういうことで言ったら、まず相談して頂ければそれには真摯に答えますってのが一つにあるんですけど。ということで、まず一番簡単な博物館の中で、遺跡を復元していない所はほとんど利用ができます。とんでもない事をしなければだいたいできます。ですから、この広場の前だとか、そこはほとんど問題なくキャンプができます。それから復元住居がある所については、他の人が使うか使わないかっていうことで、可能性が違います。それから二つ目は、今言ったような場所使わないけれども、そこに例えばテントを張ると、どういうふうに景観が変わっちゃうんだっていうところは、基本的にはなかなかよくできません。だったら、西側の方については、あまりそういう景観が変わらないので、そちらを利用するってことで、景観を壊さないところであれば可能性は考えられます、対応します。デザイナーの人達も、最近はいっぱい相談に来て頂いています。それで私達も、中でもいいですし、外でもいいですし、あるいは一緒にやっていくのでもいいですし、そうした提案をしてくださいという形で、それも事務所にまず話をさせていただきたいということで。もっと敷居を低くして、ホームページとかで申請できたりするといいよねってことも、もしかしたらあるのかもしれないんですけど。そうしたところに対して私達もいろいろ実際にはこれはそうは言われても難しいなというのはあったりします。そういった中で、例えば、今も犬の散歩の方がたくさんいて、ここでドッグフェア、そういったことをやらせてもらえないか、なんとなくわかるんですけどね。でもそれをここでやってしまうと無茶苦茶なことになってしまうのがひとつ。犬ってなかなか難しいところがあって、好きな人と嫌いな人がいたりするので、そういういろいろな兼ね合いの中で、私達も、それは登呂博物館や登呂遺跡が地域振興にとって、どういう意味があるんですかっていうところで判断をせざるを得ないところがあるんでございます。ですから池田委員のところの連携なんかも一つは、登呂博物館に中々来ていない、子育て中の人とか、本当はそういう人たちにこそ来て貰いたいっていうのはあるんですけど、そういう人達のイベントを、主体としたイベントをやるということ。それが地域の人達のためにといったところです。それから、登呂のところに人を増やすと、幾つかそういったので、説明をしていくとそういうニーズはあるよね、やっていいよねという判断になるようなことであれば、いくらでも協力するような形になります。そんな言い方でよろしいですか。

(藤田委員)

はい、大丈夫です。まずは、相談といったところと、あとは申込フォームといったものは今のところはないというところですけども。何かしら意図があれば、そのことを開催することの目標とか、どういう世界を作り出したいとかあったら、相談をしていいんだなっ

て所をまずそのように周りの人に言いたいと思います。

(堀切会長)

ありがとうございます。窓口的なことでいえば、藤田委員にはもちろんですが、我々委員から、館長さんとかというそういったつなぎ方で。

他に何かございましょうか。これが最後の議題ですので言い足りない事ございましたら是非。この協議会で出た意見はですね、色んな形で実現出来る所は、実現して頂いているんだってというのは良くわかります。いろんな博物館の協議会に出たりしていますけれども、形だけやっているという所も実はあったりするんですけれども。こちらの登呂博は非常に真摯に取り組んでいて、形骸化していない協議会として、良い例なのかなと思います。

(池田委員)

先細りと言うお話が出たのでそこに対してなんですけど、できれば、ターゲティングではないんですけども、やっぱり企画は、あなたに来てほしいからやっているんですということがすごく大事だと思っています。私たちのインスタの話で申し訳ないんですけども、見てると静岡市民なら知っている登呂博物館みたいな特集を勝手にリールで作って出してくれるお母さん達もいて、私は昔静岡にいたから、登呂博物館のことはわかっていて、それが魅力なんですっていうのを勝手に発信しているんですよ。なので、そういった層もいるんですね。昔来た事があるんですよ登呂博物館に、じゃあ、もう一回行こうとなった時に、ちょっと行ってみようかなって思えるような企画もあるので、是非、特に漫画のお話なんかは、是非そういった層に引っ掛かると思うので、その層に届く、発信するのは是非やって頂きたいなと思いました。あとは、観光の方達を取り込んだりとか、最近インスタのリールとかで周辺のスポットと一緒に合わせて引き込むっていうことをやると来やすいんですよ。それだと認知数が全然違うんですよ。登呂博物館だけではなく。そういった技術的なところを取り込んでやって頂いたらもっと大勢の人に来て頂けるのかなって思いますので宜しくお願いします。

(田宮委員)

そのことについては、登呂博物館で考えることじゃないと思うんですよ。部局が違って全体で考えていくことだと思うんです。やっぱり観光の回遊性ですよね。それについては、もっと登呂博物館で考えるっていうより静岡市の局の方で、もっと大きな物で考えていく。その中の一つっていう認識がないと、全部登呂博物館でやってたら、多分小さい物しか出来ない。アイデアもそうないだろうし。そうすると、やっぱりもう少し大きな広い視野で見て、今日こういう意見があったけどって事で、もっとその形でやっていった方が効果的だろうなって思います。もう一つはイベントじゃない時に来る人がここの価値を見出してくれるっていうのも、一方で私はそっちの方がそもそもあるって事を大切だと思っ

ているんですよね。イベントがあるから来るではなくて、普段からさっと来て無料の所なんか見て楽しむとか、勉強するとかっていうふうになっていくといいんだろうなって思いました。そうじゃないとやっぱりイベントイベントで、私自身ボランティアの人をもっと活用して、ボランティアの人を前に出すとか、参加してくれた人を前に出すとか、そういうふうにしていくのがやっぱり基本、これからそういうふうをしていかないとマンパワーないので、そういうふうにしていくべきだと思うんですけど。基本的にはイベントだから来るんじゃないかって、日常的に来る、それが博物館として大切なところじゃないかなって思いました。

(堀切会長)

他に委員の皆さまからございますでしょうか。よろしいでしょうか。

伸びしろがあるということで、ぜひぜひ頑張っていただきたいと思います。

それでは、皆様方からいただいたご意見についてはですね、今後の博物館の運営にいかしていただくようお願いいたします。

以上で締めさせていただきます司会進行を事務局にお返し致します。

【閉会】